

大学院薬学研究科 2 年制修士課程（薬科学専攻） 研究指導教員一覧表

指導教員 (所属分野)	主な研究内容
野中 孝昌 教授 (構造生物薬学分野)	口腔細菌由来硫化水素産生酵素、あるいは蛋白質またはペプチドをジペプチド単位で切断するジペプチジルアミノペプチダーゼファミリーに属する新規セリンプロテアーゼの X 線結晶構造解析を行い、触媒機構を原子レベルで明らかにする課題の論文指導を行う。
河野 富一 教授 (創薬有機化学分野)	当分野で推進している医薬品製造に関連した研究を通じて、医薬品製造に関わる高度で専門的な有機合成の戦略を実践的に学び、合成技術を身につけ、得られた研究結果を研究論文としてまとめる。具体的な研究題目に関しては、配属された学生と相談して決定する。
杉山 晶規 教授 (衛生化学分野)	がん細胞の特性である足場非依的増殖能、細胞接着・運動・浸潤能、血管新生誘導能などを裏付ける因子についての研究や、影響を与える要因についての研究など、がんの悪性化機構に関する研究を行う。
中西 真弓 教授 (機能生化学分野)	骨吸収、インスリン分泌、口腔内病原細菌の耐酸性獲得におけるプロトンポンプの機能と分子機構を解明する。さらに、プロトンポンプを標的とした創薬につなげる。研究を通して科学的視点を身につけ、研究遂行に必要な基礎的スキルを学ぶ。
奈良場 博昭 教授 (薬学教育学分野)	プロスタグランジン産生酵素群（ホスホリパーゼA2、シクロオキシゲナーゼ、PGEシクターゼ）などが、細胞外分泌小胞に存在していることが明らかになりつつある。それらの検出手法や単離方法などに関して、各自が個別のテーマを設定し、研究計画の策定を行い、実施準備及び実験を遂行する。実験結果の解析やまとめ及びプレゼンテーションの練習や報告書の作成をととして一連の研究過程を学習する。
西谷 直之 教授 (情報薬科学分野)	悪性新生物に対する分子標的薬を志向した創薬研究を行う。化合物評価系の構築と微生物由来物質などの化合物スクリーニング、作用メカニズムの解明に関連した実験を行う。得られた化合物を用いた細胞生物学的解析から、新たな創薬標的の探索も視野に入れる。これら最先端の創薬研究を体験し、創薬に関連する基礎知識、発表技能、コミュニケーション技術、態度を学ぶ。
大橋 綾子 教授 (生体防御学分野)	老化、生体防御、環境ストレス応答、薬物耐性などを研究題材として、これらに関わる遺伝子群のスクリーニング並びに得られた候補遺伝子の機能解明を行う。各自が個別の研究テーマを設定した上で、研究計画の策定、実施、実験結果の解釈、とりまとめなどを通じて、基本的な研究遂行能力を修得する。
那谷 耕司 教授 (臨床医化学分野)	未だ不明な点が多い糖尿病の病態の解明について研究を行う。具体的にはヘパラン硫酸とインスリン産生β細胞の機能、増殖との関連を解析する。この研究を通して、医療系分野における研究者として必要な基本的な実験手技を身につけるとともに、実験結果の解析やまとめ、プレゼンテーションについての能力の習得を目指す。
工藤 賢三 教授 (臨床薬剤学分野)	臨床の現場での解決すべき問題点等に着目しながら研究テーマを設定し、研究計画の策定、実施、実験結果の解析・評価、取りまとめやプレゼンテーションを通じて、基礎研究能力の習得、ファーマシー・サイエンティストの実践を目指す。
阪本 泰光 准教授 (構造生物薬学分野)	抗菌・ウイルス薬および抗腫瘍薬の標的分子の立体構造に基づく創薬研究を行う。創薬に必要な、標的分子の構造解析、標的分子の発現・精製、化合物の生化学的・物理化学的および生物学的評価を共同研究先と協力して行う。これらの研究を通じて、薬学者としての基礎およびコミュニケーション能力を習得する。
朝賀 純一 准教授 (臨床薬剤学分野)	臨床の現場で遭遇する疑問や症例を通じて研究テーマを設定し、研究計画の策定、実施、実験結果の解析・評価、取りまとめやプレゼンテーションを行う。これらを通じて基礎研究能力の習得、ファーマシー・サイエンティストの実践を目指す。